

平成 28 年 10 月 30 日（日）に関西医療大学 5 号館 3 階講堂において、関西医療大学校友会鍼灸部会・関西医療学園専門学校校友会東洋医療部会の合同学術研修会を開催いたしました。当日は毎年恒例として、関西医療大学の学園祭と日程を合わせて開催し約 60 名の方に御参加頂きました。



今回は「外傷性頸部症候群に対する鍼灸治療」というテーマで、前半が筑波大学 保健科学部 保健学科鍼灸学専攻 教授の形井 秀一先生には、「外傷性頸部症候群とその鍼灸治療の実際」という内容でご講演を頂きました。まず初めに、外傷性頸部症候群の定義を教えてください、それに伴う多種多様な臨床的愁訴（WAD）と WAD グレード分類、各グレード別の症状の出現率などを説明して頂きました。患者さんは交通事故で外傷性頸部症候群を受傷することが多いですが、車の性能が上がり死亡者数は 1970 年のピークから年々減少傾向にあるが、事故件数と負傷者数はピークよりも増えているそうです。



その結果、今後鍼灸の役割はますます増えてくると言われていました。それに対応できるよう、交通事故時の受傷機転や注意点、アプローチ方法など資料を見せながらかなり細かく説明して頂き、明日の臨床から使える内容となっていました。実技では、28 年 2 月に実際に交通事故に合われ症状が出ている先生をモデルにし、問診から治療までの流れを見せてくださいました。実際に目の前で行われるハイレベルな治療に、皆食い入るように見つめメモを取っていました。

後半が古野鍼灸院 院長の古野 忠光先生は、「外傷性頸部症候群に対する経絡治療」という内容でご講演を頂き経絡治療とはということからしっかりと説明して下さい、その他にも気血・脈診・補瀉など学校を卒業しなかなか復習することのなかった部分をととても丁寧に説明して下さい、あやふやになっていた部分を改めて再確認出来ました。

症例報告も 2 例して頂き、それぞれ問診から治療までの流れを説明して頂き先ほど得た知識を更に自分のものと出来たと思います。今回は、外傷性頸部症候群という鍼灸師として関わることが多い疾患でしたが、ここまで深く学ぶ機会はなかなかないと思います。明日から臨床で使える最先端の技術を間近で見ることができ、とても有意義な研修会でした

